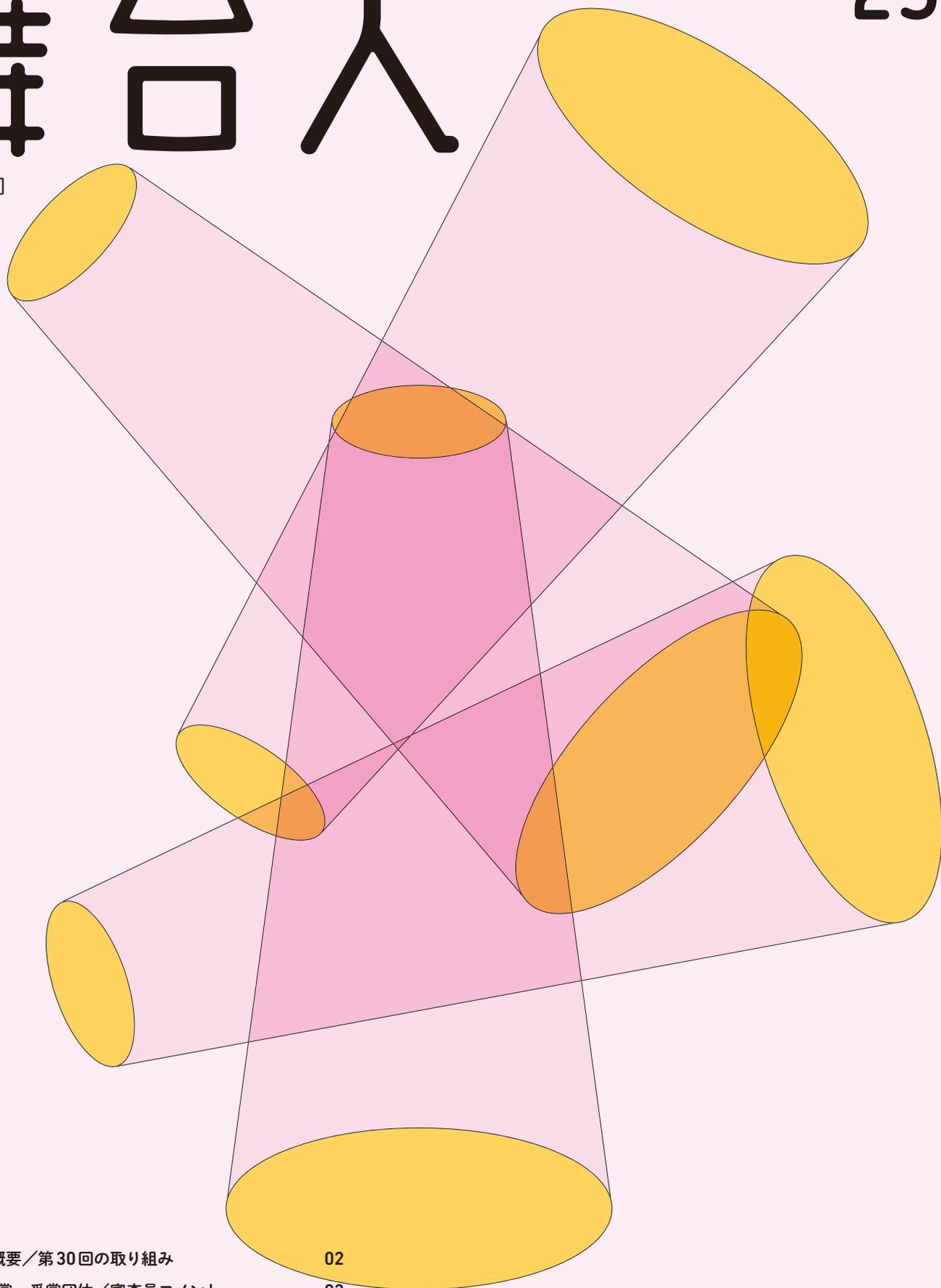


舞台人

[BUTAIJIN]



CONTENTS

池袋演劇祭の概要／第30回の取り組み	02
第30回演劇祭賞 受賞団体／審査員コメント	03
第30回池袋演劇祭《前夜祭・CM大会》	08
審査員データ／クレジット一覧	09
第30回池袋演劇祭上演記録	10
第31回池袋演劇祭参加団体・審査員募集／編集後記	12

池袋演劇祭とは

豊島区は、池袋を中心に数多くの小劇場が存在し、演劇を志す若い人々が集う街です。若い演劇人を育成しより多くの人たちに演劇にふれてもらう場として池袋演劇祭が企画されています。

池袋演劇祭は、平成元年(1989年)から地域密着型の演劇祭として毎年実施され、今年2018年に30回目を迎えました。

豊島区に点在する劇場が連携して、何か出来ることはないだろうか、というのがはじまりでした。現在は、豊島区及び近隣で公演を行う劇団が参加し、審査員は一般からの公募で毎年100名募集をしています。池袋演劇祭は、積極的に「演劇のまち」を力強く広く区の内外にアピールし豊島区のイメージアップに貢献してきました。このため、回を重ねる度に地域はもとより各方面からの関心も高まり、文化庁や東京都からも豊島区での舞台芸術の活発な活動が注目されております。30年を経て今後も池袋演劇祭は、豊島区が更なる飛躍をめざし、「国際アート・カルチャー都市構想」の一環として、「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」への取り組みに際し、舞台芸術関連団体に幅広く連携を呼びかけ、引き続き地域に根ざしたユニークな演劇祭として開催いたします。

年間スケジュール（2018年度）

1月22日(月)～4月10日(火) 参加団体募集期間
5月10日(木)～6月20日(水) 審査員募集期間
7月12日(木)午後4時 劇団・劇場関係者説明会 あうるすぽっと 3階 B会議室
7月26日(木)午後7時 審査員説明会 あうるすぽっと 3階 B会議室
8月23日(木)午後5時30分 池袋演劇祭前夜祭「予告編・CM大会」 サンシャインシティ アルパB1 噴水広場
9月1日(土)～9月30日(日) 第30回池袋演劇祭 豊島区内・近隣17会場
10月4日(木)午後7時 審査員・劇団・劇場関係者 意見交換会 あうるすぽっと 3階 B会議室
10月11日(木)午後4時 「演劇祭賞」選定会 あうるすぽっと 3階 B会議室
10月29日(月)午後7時 「演劇祭賞」表彰式・祝賀会 あうるすぽっと(劇場・ホワイエ)

7つの特色

- 誰でも参加できます**
プロ・アマを問わず参加可能です。
- 審査員を公募します**
区外からも応募可能です。
- 一般公募審査員の採点により参加作品を表彰します**
「演劇祭賞」各賞すべてを公募審査員が決定します。
- 参加団体が会場として区立ホールを使用する際には割引提供します**
団体が参加しやすい環境づくりの一環として、会場使用料を割引します。
- 参加団体による前夜祭「予告編・CM大会」を開催します**
参加作品の見どころを2分で観ることができます。
- 大賞受賞団体は翌年あうるすぽっとで公演ができます**
劇場の無償提供と演劇祭へ招待公演として参加できます。
- 大賞受賞団体の翌年の招待公演の広報面をサポートします**

第30回の取り組み

7つ目の特色を追加

池袋演劇祭の抱える問題のひとつである「大賞団体へのサポート不足」を受け、「大賞受賞団体の翌年の招待公演の広報面をサポート」を特色に加えました。今年とはしまテレビ「としま情報スクエア」にラビット番長が出演し、大賞記念公演をPRしました。

Twitter、Facebook開設

例年課題となっていた「演劇祭の広報・周知」を受け、Twitter、Facebookアカウントを開設し、参加団体の紹介やCM大会・演劇祭賞の結果速報を行いました。Twitterではイメージキャラクター「マイムちゃん」が演劇祭をPRしました。

ミーティングの活性化

池袋演劇祭は参加団体と100名の審査員が主役。「みんなで作る演劇祭」として盛り上げたいという思いから、説明会、意見交換会ともにこれまでと趣を変え、参加者同士が積極的に対話する形式をとりました。

オリジナルグッズの製作

オリジナルトートバッグを製作し、関係者に配布しました。「ぜひこれを持って劇場に行ってください」と呼びかけたところ、多くの審査員が利用している光景が見られました。

特別協賛社の参画

本年は、イケメン役者育成ゲーム「A3」を手掛けるリベル・エンタテインメント株式会社より特別協賛をいただきました。「演劇文化を応援したい」という思いから、特別賞として「リベル・エンタテインメント賞」を創設しました。

新しい賞の創設

上記「リベル・エンタテインメント賞」に加え、池袋演劇祭初めての個人賞として、今後の活躍が期待される若手俳優一名に贈られる「舞台芸術学院奨励賞」を設立。さらに、昨年、池袋演劇祭の生みの親と言える三浦大四郎氏の逝去を受け創設された「三浦大四郎特別賞」は、「三浦大四郎記念賞」と名前を変え継続されることとなりました。

運営の見直し

30年の節目を迎えるにあたり、あらためて池袋演劇祭の意義や役割を分析し課題を抽出しました。その上で、運営を見直し、課題解決に取り組みました。

*各賞の結果やCM大会の映像、意見交換会のレポートは、池袋演劇祭のHPからご覧いただけます。

第30回池袋演劇祭

51劇団が参加して9月1日から30日にかけて

豊島区および近隣17会場で開催され、10月に13本の各賞が決定しました。

賞名称	劇団名	公演名	会場名
大賞	劇団SHOW特急	旋風峠の仇討ち	コフレリオ 新宿シアター
優秀賞	劇団現代古典主義	同時進響劇版シェイクスピア"ヴェニスの商人" 「アントーニオとシャイロック」	コフレリオ 新宿シアター
優秀賞	ラビット番長	ギンノベースボール	シアターグリーン BASE THEATER
豊島区長賞	演劇企画ハッピー圏外	第30回公演「陽だまりのキャンバス」	てあとらぼう
リベル・エンタテインメント賞*	演劇ユニットちょらんま	もしもティアラがなくても	北池袋 新生館シアター
舞台芸術振興会賞	道頓堀セレブ	トップ・ガールズ	コフレリオ 新宿シアター
みらい館大賞賞	晩餐ヒロックス	ダイコウシン	シアターグリーン BOXinBOX THEATER
豊島区町会連合会会長賞	“STRAYDOG”	路地裏の優しい猫	シアターグリーン BIG TREE THEATER
豊島区観光協会賞	CHARGE	CHARGE LIVE vol.25「OUT」	萬劇場
豊島新聞社賞	チームまんO	ハラミ	萬劇場
としまテレビ賞	JAMPAN	金魚花火	シアター KASSAI
三浦大四郎記念賞*	STAR☆JACKS	君が為～恋風は揚梅の薫り～	シアターグリーン BASE THEATER
舞台芸術学院奨励賞*（個人賞）	相馬光（チームまんO「ハラミ」出演）		

*本年度新設賞

【大賞】 劇団SHOW特急 「旋風峠の仇討ち」



撮影：五門拓也

「大賞は、劇団SHOW特急。」受賞式会場でそう聞いたとき、一際大きな声で「は？」と叫んでしまった。「え？」ではなく「は？」だ。自身の育ちの悪さのせいではない。いや、育ちの悪さも無いことは無いのだが、その結果が余りにも想像の範囲の外。信じられないという気持ちが強かったのだ。

池袋演劇祭との出会いは、劇団旗揚げの翌年の第25回だ。結果は惨敗。賞にはかすりもせず、先達者達の受賞を傍目に、いつか見てろよ!と息巻いていたのを覚えている。あの頃は旗揚げ

したばかりで、とにかく何か形が欲しくてやっきになっていた。その次が第27回。前公演の「真田十勇伝」という時代劇が好評だったため、よし、これならいけんじゃね?と多少の自信を引っつけて再演という運びになったのだ。結果はとしまテレビ賞を受賞。同大会のCM大会では最優秀賞を頂き、非常に嬉しかった。と同時に、自分の未熟さを見せつけられた。今回あれだけの熱をもってしても駄目だった演劇祭で大賞なんて夢のまた夢、そう思っていたのだ。

旗揚げから6年。既に「やっき」も取れ、ただ作品創りに集中していた。何度もシーンを練習し、役者が出来ない殺陣を夜中に教え、衣装小道具の作成を抱えながら賞を取るなど微塵も考えていなかった。「真田十勇伝」と比べたら、「旋風峠の仇討ち」は非常にこじんまりとした作品だ。時代劇なのに誰も死なず、一つの宿場町を舞台としている。だが話の大小や作品の派手さは関係なく、そこに人としての何かが流れていれば良いということを、今回の演劇祭で学ばせて頂きました。これからも演劇に流れる可能性と自身を見つめ直す良い機会として、演劇祭に参加し続けていきたいと思います。

劇団SHOW特急主宰:伊達謙一

🗨️ 審査員コメントから

「役者一人ひとりの演技力も高く、演技だけで世界観が目に見えてくる。ストーリーの流れ、テンポ、すべてすばらしく、最後まで飽きなかったです。舞台に本当に風が吹いているような、すがすがしさがありません」
「見どころのひとつに本格的な殺陣があったと思います。とてもよく稽古をされていて、予想以上の完成度に驚きました」

【優秀賞】

劇団現代古典主義

「同時進響劇版シェイクスピア“ヴェニス商人”
アントーニオとシャイロック」

撮影：荒井孝典

ある日、弊団制作から「池袋演劇祭に参加しましょう」と突然の連絡が入りました。2014年劇団現代古典主義が上京し、やっとのことで劇団員が集まり、今後の展望について考えあぐねていた2017年の出来事です。その時、私は、商標登録に認可された新表現「同時進響劇（どうじしんこうげき）」を、一人でも多くの方に認めていただきたいという強い思いと共に、「セオリーから逸脱した演劇」「しかも古典作品の脚色」が、演劇祭という“晴れの場”で認めていただけるのだろうかとか不安な気持ちで「数日考えさせて」と返事をしました。

参加を決意した時には、古典の脚色作品でも参加させていただける池袋演劇祭で、謙虚に臆さず芝居を打とう、という一念に集中していました。この度、初参加にも関わらず、身に余る「優秀賞」をいただき、ご観劇下さいました皆様、劇場の皆様、そして、第30回という長い歴史を守り育てて来られました運営の皆様、池袋演劇祭ファンの皆様に、心より深く感謝申し上げます。光栄にも頂戴いたしましたご声援を糧に、私たちが第30回公演を打てる日がくるよう、歩いて参ります。[劇団現代古典主義代表 作・演出:夏目桐利]

□ 審査員コメントから

「メインの二人の俳優の演技は特にすばらしく、これまでに観たことのないすばらしい演技と声量で、このような劇場での演劇の醍醐味だと思いました」
「とにかく同時進行のセリフが斬新でした。話の進行に違和感なく台本が作られている点にとても感心しました」

【優秀賞】

ラビット番長

「ギンノベースボール」



撮影：長谷川隆紀

池袋演劇祭に参加するようになって十三年となりました。

毎年、公式チラシに沢山の劇団に混じって自分達の集団の名前があると嬉しく思っています。初めて参加した年は参加している劇団のほとんどを観劇に行きました。

自分が参加しておきながらどこが大賞か予想して楽しんでいました。次の年もほとんどの劇団を観劇。予想が当たれば喜んでいました。

いつか表彰式で名前が呼ばれるような団体になりたいという夢がありました。

毎年、受賞する劇団の作風が違うので楽しい演劇祭です。一般の審査員の方選んでいて新しい発見があったりして参考になります。来年はどんな作品で挑戦しようかなと今からワクワクしています。

また今年もあうるすぽっとの「ギンノキョク」ではロビーに色々な企業の協力を得て福祉フェスを開催することが出来ました。ロビーで沢山の催し物が開催されて演劇だけではなく色々な福祉器具を展示することが出来ました。

演劇で出来ることをずっと考えています。演劇には力があると私は信じています。

本当にありがとうございました。[ラビット番長 番長:井保三晃]

□ 審査員コメントから

「最初の客入れからしっかりお客さんをその世界に引っぱっていた。アナウンスも合わせており、最初からわくわくさせてくれた。重くなりがちな内容でしたが、コミカルに描かれているところも多く、明るい気持ちで観られました」
「病気のこと、家族のこと、仲間のこと、仲間の家族のこと等、ふんだんに描かれているのにも関わらず、しっかり伝えきっているところがすごく良かったです」

【豊島区長賞】

演劇企画ハッピー圏外

第30回公演「陽だまりのキャンパス」



このたびは豊島区長賞という素晴らしい賞をいただくことができ劇団員一同大変嬉しく思っております。心よりお礼申し上げます。

池袋演劇祭は今回で5回目の参加となりましたが、公演中に台風が直撃したため、やむを得ず公演中止の回もございました。約15年以上にわたり公演を行っておりますが、公演中止は初めての経験で大変悔しい思いもいたしました。このような中無事に公演を終えることができましたのは、ご来場いただきましたお客様、出演者、劇場主様、スタッフに支えられての事と思います。

演劇祭に参加させていただきCM大会や表彰式で他の団体と交流を持つことができること、審査員の方から直接お話を聞くことができることは貴重な時間となっています。

私たちが、いただいた賞に恥じぬよう、今後も精進して参りたいと思います。最後になりましたが池袋演劇祭のますますの発展を祈念しております。皆さまありがとうございました。

□ 審査員コメントから

「シンプルな舞台美術でしたが、出演者の声が大きくて明るく元気な雰囲気で見込まれました。役者さん一人ひとりがいい味を出していました」

「芸術および芸術家とは何か?ということに踏み込んだ脚本が面白いと思いました。舞台展開の速さもよく、やる気、情熱が非常に感じられた舞台でした」

【リベル・エンタテインメント賞】

演劇ユニットちょらんま

「もしもティアラがなくても」



池袋演劇祭には、2015年から参加させていただいております。今回、4年目の挑戦で初めて受賞できて、非常に嬉しく思います。

今回の受賞作品「もしもティアラがなくても」は、「私、何も遺せないまま死んでいくの…」と嘆いた主人公が、最終的には自分が持っているものを全部次世代に渡して、満足して亡くなっていく、というお話でした。そんな作品で、リベル・エンタテインメント賞という形に残るものをいただけて、面白いものだなあと思っております。

今回評価してくださったことで、「ちょらんまを応援して下さった、手伝って下さった、ともに作品を作ってく下さった全ての皆様」に、ひとつ良いご報告ができました。そのような評価を与えて下さった審査員をはじめ全ての観客の皆様にお礼申し上げます。

次回公演は、2019年9月に北池袋新生館シアターで予定しております。今まで通り、「仕事帰りに気軽に観られるコメディ」を上演します。

2018年にいただいた「リベル・エンタテインメント賞」に恥じぬよう、初心を忘れず、邁進いたします。

この度はこのような素晴らしい賞をいただきありがとうございました。

今後ともよろしく願いたします。[演劇ユニットちょらんま主宰:高山典子]

□ 審査員コメントから

「人生で何を残せるかという、非常に普遍的なテーマを相手取った作品。奇をてらわず正面から向き合う姿勢がよい。主演女優も、引っ込み思案がひとつずつ自分を変えていくのがはっきりと見てとれて、心を動かされた」

「思わず涙が流れてしまう展開。暗転の間に、となりに座る人に悟られないように手の甲でふきとった」

【舞台芸術振興会賞】

道頓堀セレブ

「トップ・ガールズ」



実は過去に二度、客演として「池袋演劇祭」に参加しておりました。

今回、自身のユニットで初参加にも関わらず、「舞台芸術振興会賞」というありがたい賞をいただき、とても光栄に思います。

関西の劇団が、関東圏でも認められたという事実は、これからも我々が活動するにあたり、本当に励みとなります。

小劇場というジャンルは観客の幅が拡がりにくく閉鎖的な側面があり、お芝居を知らない方にもっと沢山観ていただくにはどうしたらよいか、と常々思っておりました。その意味で、審査員を一般公募するというこの企画には

とても感動いたしました。

けれど、関西の劇団は特に関東圏ではアウェイ。お客様は来てくれるだろうか……、作品を楽しんでいただけるだろうか……という不安も正直ありました。

もちろん参加団体の皆様は、真摯に作品に取り組み、その成果を、お客様に届けていかれたことと思います。

そのような状況の中、我々を評価して下さった事、心より感謝申し上げます。その責任をしっかりと胸に受け止め、益々精進していくことをここに誓います。

また、この素晴らしい演劇祭がこれからも未永く続いていくことを心よりお祈り申し上げます。

機会があれば、また参加させていただき、次こそ大賞を狙いたいと思っております。

本当にありがとうございました。[道頓堀セレブ主宰:山本香織]

□ 審査員コメントから

「役者の皆さんが演技に真摯に取り組んでいる姿勢に感動しました。女性だけの芝居ですが、とてもパワフルで、エネルギーがあふれていて、キャラクター作りもおもしろい。」

「個性的な演技者の集団であるということが感じられ、それぞれの演技を楽しんで見ることができました。」

【みらい館大明賞】

晚餐ヒロックス

「ダイコウシン」



撮影：加藤英洋子

今年の元日に僕は劇団員にあるラインをしました。

～2018年の目標～

- 1、650人の集客
- 2、賞を獲る

学生時代の公演目標といえば、お客さんを楽しませる、アンケートを書いてもらう、台本を早く書く等、漠然としたものでしたが、今年は劇団員が全員社会人になったので、具体的な目標を立てて、結果にこだわる1年と決めていました。このラインに関して誰からも返信がなかったのはうちの劇団らしいですが、表に出さなくても各々覚悟を持って取り組んでいたと思います。

そんな中、参加したこの池袋演劇祭。

結果、8ステージで745名のお客様にご来場いただき、「みらい館大明賞」という素晴らしい賞をいただくことができました。目標が達成できて、内心ホッとしていますが、同時にもっといい芝居を作って、もっとたくさんのお客様に演劇を楽しんでもらいたいという新たな欲と目標が生まれました。

2020年までに動員1000人を越える。

数年後にはあうるすぽっとやサンシャイン劇場、東京芸術劇場で演劇をする。具現化する為、ここに記しておきます。

池袋演劇祭は晚餐ヒロックスに未来へ向けた大きなモチベーションを与えてくれました。

全部叶えようと思います。

最後に、「ダイコウシン」のスタッフとキャスト、演劇祭の実行委員の皆さま、そして何より観劇して頂いた全てのお客様に感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。[晚餐ヒロックス主宰:渡部寛隆]

🗨️ 審査員コメントから

「多人数でのダンスや動きも多くありましたが、スマートに動かれています。タイトルやセリフ、役名なども練られており、観終わったあとにもいろいろと想像できる作品でした」

「人類が地球から小さな惑星に疎開して、その惑星に住む宇宙人とのコミュニケーションをどのように図るか、試行錯誤しながら接触して、心通わずまでをコミカルに描かれており、笑っぱなしの100分間でした」

【豊島区町会連合会会長賞】

“STRAYDOG”
「路地裏の優しい猫」



本作品は1968年のメキシコオリンピックで私の叔父がボクシングで銅メダルを獲り、その後の破天荒な人生を描いた実話です。映画では企画として角川エンジェル大賞、本編で東京国際映画祭で特別賞を頂き、この度、舞台でも賞を頂けることになりました。一生懸命やっていたら、神様は微笑んでくれるのだと思える賞でもありました。また、上演させて頂いたシアターグリーンさんは思い出深い劇場でもあり、ラッキーな劇場でもあります。私がまだ役者をしていた二十年前、テレビのプロデューサーが芝居を観て、私を起用してくれたこともありました。その後、鳴かず飛ばずだったのですが(笑)。今回、この場を借りて出演してくれたキャスト及び裏を支えてくれたスタッフ、また、「路地裏の優しい猫」を応援してくれた観客の皆様、審査員の皆様に感謝したいと思います。本当にありがとうございました！【“STRAYDOG”主宰:森岡利行】

🗨️ 審査員コメントから

「コメディ的な演出あり、歌や踊りもありで、全体的に完成度も高く、とても楽しませていただきました。シナリオもよく練られていて、涙あり、笑いありのとても良い舞台だったと思います」

「ボクシングジムや猫たちのダンスシーンも楽しめました。芸術には人の生き方や愛が描かれていなければつまらない、この作品には大切なそれらがしっかり描かれていたと思います」

【豊島区観光協会賞】

CHARGE CHARGE LIVE vol.25
「OUT」



2001年に関西で旗揚げし、2003年から東京で活動し始め15年目を迎えた今年、新たな挑戦をとこの池袋演劇祭に参加致しました。

初参加で入賞させていただくことが出来、大変嬉しく思います。また、この池袋演劇祭を通してCHARGEを知って下さった皆様、ご覧下さった皆様に感謝致します。

これからもCHARGEの世界観をより沢山の皆様にお届け出来ますよう精進して参ります。

この度はありがとうございました。

🗨️ 審査員コメントから

「上演時間の3分の1は笑い、3分の1は泣いていたと思うくらいに物語に引き込まれました。歌、ダンス、タップ、照明、音響、すべてに意図と工夫が感じられ、とても温かくて優しく美しい時間を味わわせて頂きました」

「老若男女だれにでも受け入れられるわかりやすいプロットながら、薄っぺらさは全くない。喜怒哀楽が存分につまった大満足の作品。楽しい時間でした」

【豊島新聞社賞】

チームまん〇(まる)
「ハラミ」



チームまん〇は、この度初めて池袋演劇祭へ参加させて頂きました、大変ありがたいことに豊島新聞社賞と重ねて舞台芸術学院奨励賞一つの作品の中から頂いたことに驚いております、二賞同時受賞は長い演劇祭の歴史の中でも初めてなのではないかと思っております、本当にありがたいことです。

そもそも我々チームまん〇は、取り扱うテーマやその団体名から、名前は知っているけど観劇するのは敬遠がちと言われます、それ故そもそも演劇祭の参加を断られるのではないかと、あるいは参加できたとして各賞の受賞からは外れるのではないかと危惧しておりました。実際は運営の皆さんも審査員の皆様も他団体様と区別することなく公平に扱って下さいました。正直に申し上げますと、我々のテーマや団体名から多少の偏見は持っていたきたいと考えております、その色メガネをかけたまま劇場に来ていただき、ある種期待とも言うべきその気持ちを裏切らずに、その上で不快にさせず且つ素晴らしいと満足いただける作品を創る、それが我々チームまん〇の理想とする所でございます。そう言った意味でもこの度の二賞同時受賞は目指すべき結果が出たと感じております。

最後に一つ、我々のチーム名は特に活字にすると誤解を生み安いですが大丈夫ですか？[チームまん〇(まる)代表:小山太郎]

🗨️ 審査員コメントから

「題材的に好き嫌いが分かれる作品であるとは思いますが、脚本がしっかりしているため、最後まで飽きずに観られました。」

「ちょっと引いてしまう言葉、単語が頻発するが、嫌らしくなくユーモラスで楽しい。開演前の観客とのやりとりなど、参加型観劇への試みも楽しい」

【としまテレビ賞】

JAMPAN
「金魚花火」



この度、第30回池袋演劇祭にて、としまテレビ賞を受賞致しました、JAMPANの窪田です。

初プロデュースという事で、演劇祭を通してJAMPANの名前がたくさんの方に知って頂けたらいいなと思い参加しました。プロデュース団体ですし、まさか受賞できるなんて思ってもいなかったのが本当に光栄です。

これからもJAMPANはたくさんの方に素敵な景色を届けられるよう駆け抜けていきます。

本当にありがとうございました。

🗨️ 審査員コメントから

「一人ひとりの熱の入った演技がとてもよかったです。役作りに徹した演出がなされており、ストーリーがすんなりと入ってきました」

「ドリフのように先の先の先までわかるベタベタな脚本。こういうストーリーは演出力と役者の力量が問われますが、先生役の俳優を筆頭に、脇を固める若手とベテランチームが良いバランスで役割をこなしており観やすかったです」

【三浦大四郎記念賞】

STAR☆JACKS
「君が為～恋風は揚梅の薫り～」



この度「三浦大四郎記念賞」を頂きました。池袋を日本のブロードウェイにしようと尽力された方の名を冠した賞を受賞した事は、とても光栄であり、今後も三浦大四郎さんの名に恥じぬ活動をしていかなければいけないと、身の引き締まる思いであります。

今回の公演では、スライドキャストシステムで7チーム同時進行で芝居を創るという破天荒な試みを導入しました。

演出家にとっては挑戦しかありませんでしたが、多くのお客様には「この人のこの役の時も観てみたい」「推しが出てない回も観てみよう」と面白がって頂いた様子でした。

皆がやるべきとは思いますが、観劇人口を増やすという名目に於いてはとても有効な手段だったと思います。

面白い作品創りは大前提として、各団体がそれぞれの特色を色濃く打ち出していけば、

これからの演劇文化の発展に繋がってゆくのではないかと…。今回参加させて頂いて、そう強く感じました。

次回参加させて頂く時には、更にアグレッシブでぶっ飛んだ試みをしたいと思っております。[STAR☆JACKS主宰:ドスタジ]

🗨️ 審査員コメントから

「テンポが良くて、殺陣は迫力があって、照明をあびて光る刀が美しく、とても楽しく観ることができました」

「立ち回りや殺陣はさすがで迫力満点。配役が日々変わるスライドキャストで、役者さんは大変であったと思うが、みごとに演じ切っていた」

【舞台芸術学院奨励賞】

相馬 光
(チームまん〇「ハラミ」出演)



芝居を勉強してから、そして役者として舞台上に立ってまだ5年程しか経っておりませんが、このような素敵な賞を頂き大変光栄に思います。自分という存在を少しずつでも確立できているのかなと、自信にも繋がりました。池袋演劇祭に参加出来た事もまた、演劇界を盛り上げる為の経験の一つであり、身が引き締まりました。ですが、演劇祭だからといって緊張せず、肩の力を抜いて参加出来たチームまん〇さんと出会えた事が何より嬉しいです。まん〇さんをもっと多くの方に観て頂きたいですし、相馬光という人間が何をしたいのか見届けて頂きたいです。これからも私なりに芝居と向き合って生きていきたいと思います。どこかで皆様にお会い出来ることを願っています。

審査員代表コメント

池袋演劇祭に参加して

西島 潔

今年審査員として初めて池袋演劇祭に参加した西島です。観劇一年生の感想を述べさせていただきます。まずは劇団の皆様、演劇祭スタッフの皆様、楽しい九月を過ごすことができとても感謝しています。

ほとんど演劇を観た経験もなく、友人に誘われ演劇祭の審査員に応募し、昨年落選したので二回目の挑戦で演劇祭に参加することができました。演劇祭参加前の演劇に対する印象は、「一部の変わった人がやっている小難しい物、中身は分からない自分とは別の世界の物」でした。演劇祭を終えての今は、「割と面白い物、機会があればまた観てもいいな」に変わってきました。

感じたことを二点お話ししたいと思います。演劇をあまり観たことがない人にとって重要なことは、話しの筋書きがわかるかどうかです。この一ヶ月で九作品を観ましたが、面白いと感じた作品は、話しのあらすじを覚えてますし、あまり印象に残っていない作品はどんな話しかパンフレットを読返しても思い出せません。指定作品の一つがオペラでしたが最初はあまり気が進みませんでした。外国語の歌を聞いても分からないし、観賞するオペラの背景も分からないし、登場人物もカタカナなので頭に入りません。しかしオペラの観劇は予想に反してとても面白い物でした。正面天井に日本語の字幕を映してくれたのです。舞台で何が行われているかよく理解できます。男性が女性を口説くところなど興味しんしんで見てしまいました。いままでのオペラは字幕なしの洋画を見るようだからつまらなかったのかと自分で納得してしまいました。

次は、新しいお客様の開拓の話です。演劇祭終了後の審査員・劇団関係者・スタッフで行われた意見交換会で、劇団関係の方から「新しいお客様が観に来てくれない。固定客しか観に来てくれない。」との話がありました。「初めてのお客様に観に来てもらうのは大変だ。」「いい大人に自分たちの演劇を観るために時間を割くことは難しい、金額の問題ではない」との意見を聞きました。初めて観てもらうゼロ回から一回は私もとても難しいと思います。しかし一回観た人をもう一度、二回目に観てもらうかどうかは劇団さんの努力ではないでしょうか？池袋演劇祭では最低十人のいままでその劇団をほぼ観ていない審査員が指定公演として観劇しています。次回公演の案内をするなり招待するなり営業してみてください。今回の公演を本当につまらなかったと感じない限り何らかのアクションをしてくれるはずですよ。

今回の表彰式で、受賞される劇団、残念ながら受賞出来なかった劇団に分かれてしまうと思います。この表彰式が終わったら、次の公演の準備、ひよっとすると来年の池袋演劇祭の準備に向けて走り出して下さい。来年も審査員に応募します。皆さんの新しい芝居を楽しみにしています。

前夜祭・CM大会

参加団体が2分間で自分達の公演をアピールする噴水広場でのCM大会。

日時= 8月23日[木] 17:30~ 会場=サンシャインシティ アルパB1 噴水広場

今年は 32 団体 33 演目が参加しました。
ソロダンスから大人数での歌ありダンスありの
パフォーマンスまでバリエーション豊かな CM を、
演劇ファンの方々も通りがかった
買い物中のお客様も楽しんでいました。



最優秀賞 イマノカゲキ
『かぞくのつもり』



優秀賞 ラビット番長
『ギンベースボール』



優秀賞 演劇企画イロトリノハナ
『明日 -1945年8月8日・長崎-』



優秀賞 劇団ベイベーベイベー
『LIMIT』



特別賞 劇団東俳
『ブンナよ、木からおりてこい』



特別賞 ガラ劇
『ガラ版シェイクスピア『飛翔将軍』 ~マクベスを聞きながら~』



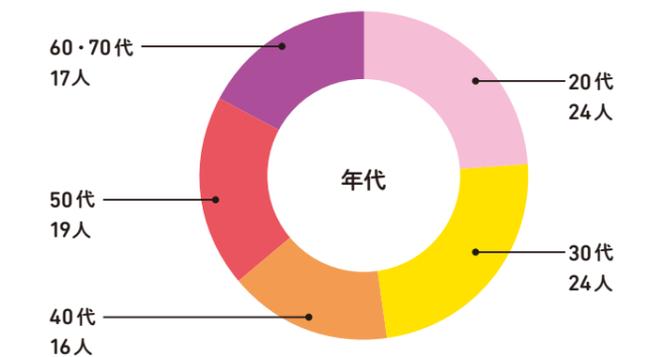
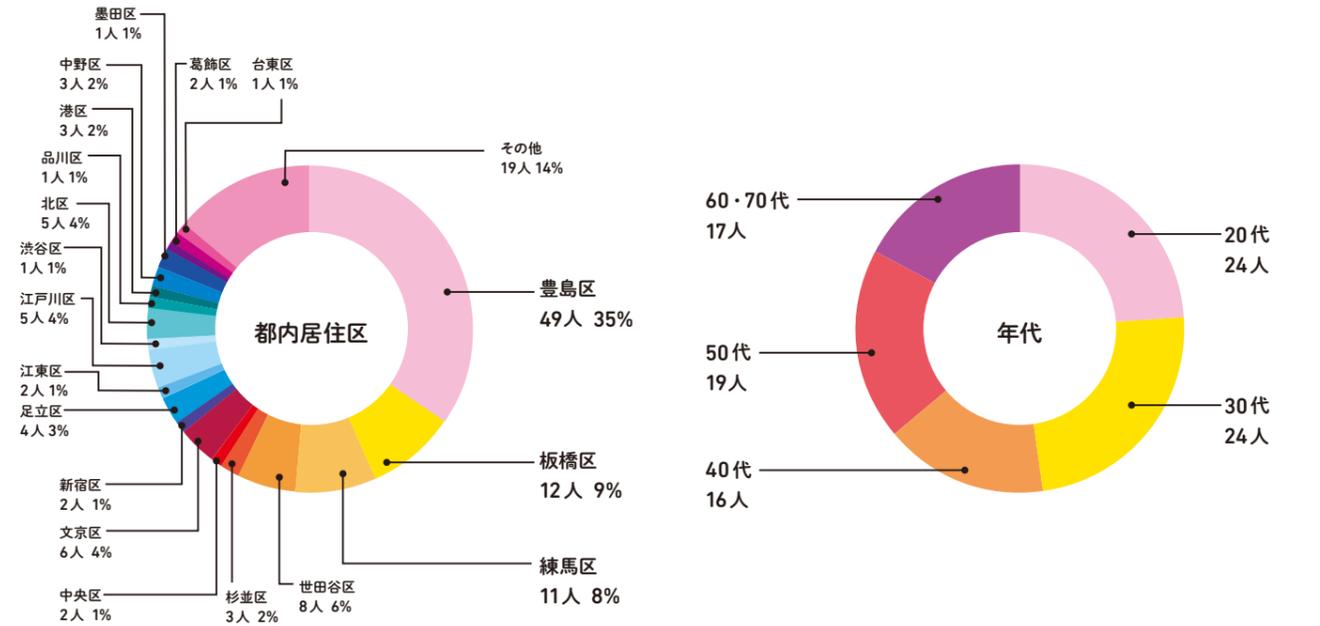
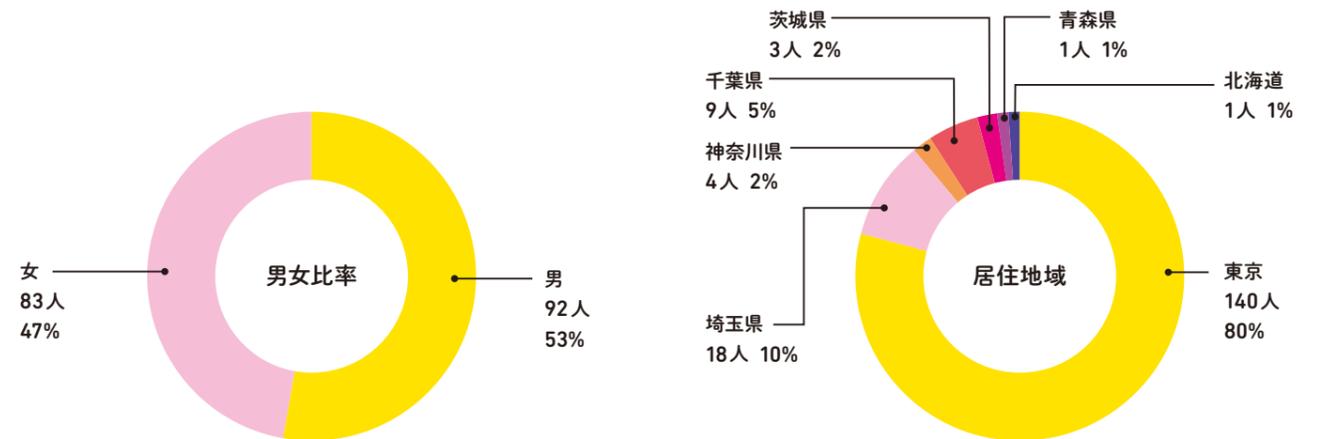
特別賞 MANHOLE THEATER
『沈黙の朝、鳥の歌が聴こえていた』

撮影:山本未紗子

審査員データ

募集期間= 2018年5月10日[木]~6月20日[水]

応募総数= 176名 ⇒ 抽選の上、100名を決定



池袋演劇祭実行委員会

【委員】

名誉委員長	高野之夫	豊島区長
委員長	朝比奈文彦	シアターグリーン支配人
副委員長	小澤弘一	豊島区国際文化プロジェクト推進担当部長
副委員長	齋藤 明	豊島区文化工務部長
委員	飯村弘一	萬劇場
委員	小林 真	舞台芸術学院 理事長
委員	白神久吉	東京芸術劇場 舞台管理担当課長
委員	関 慎吾	豊島区文化工務部 劇場運営担当課長
委員	東澤 昭	公益財団法人としま未来文化財団 常務理事・事務局長
委員	渡邊圭介	豊島区文化工務部 文化デザイン課長

【顧問】

顧問	阿部寿美子	俳優
顧問	大沼映雄	
顧問	斎藤 真	劇団俳小代表
顧問	田邊 彬	

【事務局】

事務局長	蓮池奈緒子	公益財団法人としま未来文化財団 あうるすぽっと 支配人
事務局	高橋真実子	公益財団法人としま未来文化財団 あうるすぽっと 制作
事務局	中村みなみ	公益財団法人としま未来文化財団 あうるすぽっと 制作

としま区民芸術祭提携 東京芸術祭2018参加

主催	池袋演劇祭実行委員会
後援	一般社団法人豊島区観光協会、東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)
特別協賛	株式会社リベル・エンタテインメント
協賛	株式会社サンシャインシティ、NPO法人いけぶくろ大明、豊島区町会連合会、株式会社豊島新聞社、豊島ケーブルネットワーク株式会社
協力	東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、池袋西口商店街連合会、池袋東口美観商店会
助成	平成30年度文化庁国際文化芸術発信拠点形成事業(豊島区国際アート・カルチャー都市推進事業)

第31回池袋演劇祭 | 参加団体・審査員募集 | 開催期間：2019年9月1日[日]～9月30日[月]

参加団体募集 詳細・申込方法は池袋演劇祭HPに1月中旬にUP予定です。

- 参加資格**
- ①池袋演劇祭開催期間中に、豊島区及び近郊の劇場・ホール等で2日間、2回以上の公演ができる団体（プロ・アマを問わない）であること。
 - ②審査用に鑑賞券20枚を招待として、演劇祭主催者に無料提供できること。
 - ③責任をもって公演を実施できること。
 - ④池袋演劇祭の関連行事（説明会・CM大会・意見交換会・表彰式等）に出席できること。※表彰式出席は必須
 - ⑤チラシ等に「第31回池袋演劇祭参加作品」と明記すること。
 - ⑥過去3年以内に、池袋演劇祭賞を受賞した作品は審査対象となりません。
- ※参加資格を満たさない場合でも「特別参加」がありますので事務局にご相談ください。

募集期間 2019年1月22日[火]～4月10日[水]

表彰 大賞1作品 優秀賞2作品 その他演劇祭賞など数本あります。

審査員募集 詳細・申込方法は、文化情報誌 Mirai 5月号に掲載予定、HPに5月初旬にUP予定です。

- 募集要項**
- ①18歳以上で演劇祭行事に積極的に参加出来る方（説明会・団体との意見交換会等有）
 - ②開催期間中の事務局指定3～5公演を必ず鑑賞して指定の採点表に記入し提出できる方
 - ③指定公演他、数公演の無料鑑賞券・鑑賞補助券を差し上げます。



池袋演劇祭
公式キャラクター
マイムちゃん

お問合せ 池袋演劇祭実行委員会事務局

TEL: 03-3985-0960 FAX: 03-5391-0752 E-mail: ike_engeki@a.toshima.ne.jp

HP: <https://ikebukuroengekisai.jp/> 池袋演劇祭で検索できます。

Twitter: @IKE_ENGEKISAI (池袋演劇祭*マイムちゃん)

Facebook: <https://www.facebook.com/IKEBUKUROENGEKISAI/>

編集後記

「30年」

池袋演劇祭実行委員長 朝比奈文彦

平成と共に始まった池袋演劇祭も、今年で30年目の節目を迎えた。

「30年」一言で言ってしまうと簡単だが、その30年という月日はテクノロジー、政治、人口など様々な面で世界を劇的に変化させ、驚異的な発展とイノベーションに満ち溢れていた。世界の人口は劇的に増加し、建物の高さは想像を超える。インターネットは急激に普及し、ソーシャルメディアが台頭した。携帯電話に自動運転車、コンビニにIT、あらゆるものがネットに繋がっている。30年前から考えると全てが夢の話だ。

しかしこうした変化が常に良いものとは限らない。逆に便利になった分の反動、ペットボトルは生態系を壊し、温暖化は地球に深刻な影を落とす。

池袋演劇祭が30年間、この月日の経過による変化の中にあつたと考えれば、その存在の力強さがダイレクトに伝わってくる。「すごいな～」、単純にそう感心する。ここで舞台芸術の近年の変化を語るつもりは毛頭ないが、感覚的には「劇的」とか「改革的」とかいう言葉は到底当てはまらないだろう。

時代と共に変わっていく価値観。物事のスピードは増してその分変化の落差も大きい。果たして人間がそのスピードについていけるのだろうか？

今日も小劇場は開演を5分遅らせるアナウンスの後、暗転して私の心を期待に膨らませてくれている。どんなに社会が変わっていても、私の変わらない楽しみが、また始まる。

株式会社リベル・エンタテインメントは
「池袋演劇祭」を応援しています。

 LIBER
ENTERTAINMENT

